

活動プログラム展開案①<小学校>
「怒りについて考えよう」

◆本時のねらい

- ・怒りの感じ方が人それぞれ違うことを理解することができる。

◆授業前の取り扱い

- ・ペアやグループをつくる場合は意図的な構成を行い、児童の心理的な負担をできる限り減らすように配慮する。
- ・本時の内容について配慮を要する児童がいる場合は、本時の活動の内容や流れを事前に知らせる。

◆展開(本時で使用する【スライド1】～【スライド9】は、展開案の後に示しています。

なお、スライド資料を使用せずに、板書することも可能です。)

学習活動	教師の働き掛け(○) 予想される児童の反応(・)	指導上の留意点
<p>1. 身の回りのトラブルを想起し、活動プログラム全体の見通しをもつ。 【5分】</p>	<p>【スライド1】 ○皆さんは、どのような学級になったら、楽しい学校生活を送ることができると思いますか。 ・仲の良い学級 ・けんかのない学級 ・いじめのない学級</p> <p>○しかし、学校の中で、腹が立ってイライラしたりムカムカしたりすることがあるかもしれません。また、小さなトラブルが起きるかもしれません。先生は、もしトラブルが起きても、トラブルを話し合いで解決できる学級になればいいなと思っています。小さなトラブルを皆さんの力で解決できるようになれば、もっと居心地の良い学級になると思っています。</p> <p>【スライド2】 ○これから、自分たちでトラブルを解決できるようになるために、6時間の授業を計画しています。内容は、「トラブルが起きるときにどのような気持ちをもつか」、「トラブルが起きないようにするためにはどのようにすればよいか」、「トラブルが起きたときにはどのようにすればよいか」について学習していきます。</p>	<p>・【スライド1】は、授業前に提示しておく。</p> <p>・トラブルについて学習することを説明し、活動プログラム全体の見通しをもたせる。</p>
<p>2. 本時のめあてを知る。 【5分】</p>	<p>【スライド3】 ○これは、佐賀県の小学生を対象に実施した「友達との間で起きたトラブルについての調査結果」です。</p> <p>○皆さんの周りで同じようなトラブルを見たことがありますか。</p> <p>○このようなトラブルの場面で、もし、あなたがもめている立場だったら、どのような気持ちになりますか。</p>	<p>・スライドで「友達との間で起きたトラブルについての調査結果」を示し、1つずつ読み上げて身の回りのトラブルを想起させる。</p>

	<ul style="list-style-type: none"> ・イライラする ・腹が立つ ・ムカッとする ・悲しくなる <p>○トラブルが起きるときに感じる様々な気持ちの1つとして、怒りがあります。怒りは人間のもっている感情の1つで、怒りを感じるのは自然なことです。大切なことは、怒りとどのように付き合っていくかです。</p> <p>【スライド4】 ○今日は、怒りについて学習していきます。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・発達の段階や実態に合わせて怒りについて補足説明する。怒りが起きるのは自然なこと、怒りとどのように付き合うかを知ることが大切であることを知らせる。
<p>【本時のめあて】 怒りについて考えよう</p>		
<p>3. 「怒りの温度計」について考える。</p> <p>(1) 「怒りの温度計」について知る。 【2分】</p> <p>(2) 「怒りの温度計」を記入する。 【8分】</p> <p>(3) 「怒りの温度計」についてグループで話し合う。 【10分】</p>	<p>【スライド5】 ○ワークシートの1を見てください。 あなたは次のようなとき、どのくらい怒りを感じますか。怒りの温度計に色を塗りましょう。イライラしていないときの温度を0℃、怒りが爆発するときの温度を100℃とします。</p> <p>○塗り方を確認します。例を見てください。「今から勉強しようと思っていたのに、家の人から『勉強しなさい』と言われた。」と書いてありますね。同じことが起きたとき、あなたの怒りの温度はどのくらいですか。考えてみましょう。</p> <p>○60℃だと思ったら、このように60の目盛りのところまで色を塗りましょう。塗り方について質問はありませんか。</p> <p>○それでは、ワークシートの1に書いてあるような出来事があったとき、どのくらいの怒りを感じるのか個人で考えて「怒りの温度計」に色を塗りましょう。</p> <p>【スライド6】 ○グループの人と「怒りの温度計」がどのくらいになったのか交流しましょう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートを配付する。 ・怒りの感じ方を視覚化することで自己理解を促す。 ・「怒りの温度計」について具体例を挙げながら説明する。 ・身近な場面について1つずつ読み上げて怒りの温度をワークシートに記入させる。 ・個人で記入させた後、グループで話し合わせることで様々な考えがあることに気付かせる。

<p>(4) 「怒りの温度計」を比べての気づきを発表する。 【5分】</p>	<p>【スライド7】 ○ワークシートの2に気付いたことや感じたことを書きましょう。</p> <p>【スライド8】 ○怒りの温度を友達と比べてみて、気付いたことや感じたことを発表しましょう。 ・怒りの温度は、人によって違っていた。 ・人によって、怒りの感じ方は違う。 ・怒りの温度が同じくらいの出来事があった。</p> <p>○同じ出来事でも、怒りの感じ方は人によって違います。逆に、誰もが似た感じ方をする出来事もありました。</p>	<p>・気付いたことを全体場で発表させる。 ・「怒りの温度計」を活用し、怒りの感じ方は人によって違うことを意識させる。</p>
<p>4. 本時の学習を振り返る。 【10分】</p>	<p>【スライド9】 ○今日の学習を振り返ります。ふりかえりシートに記入しましょう。</p> <p>○今日の学習の気づきや感想を発表しましょう。 ・同じ場面でも、温度が高い人もいれば低い人もいることが分かった。 ・場面によっては、同じくらいの温度になるものもあった。 ・人それぞれ怒りの感じ方が違うから、友達と話すときに思い出すと、やさしく話すことができそう。</p> <p>○今日は、怒りについて学習しました。怒りは、誰でも感じるもので、怒りの感じ方が人によって違うことも学びました。</p> <p>○次の時間は怒りについて更に詳しく学習していきます。</p>	<p>・ふりかえりシートを配付する。</p> <p>・ふりかえりシートに記入したことをグループで発表し合った後に、全体場で発表させる。 ・机間指導をしながら児童が書いている内容を確認して、発表する児童がいない場合は、それを紹介してもよい。</p> <p>・次時の学習について知らせる。</p>

◆評価の視点

- ・怒りの感じ方が人それぞれ違うことを理解することができたか。

◆授業後の取り扱い

- ・児童の感想を朝の会や帰りの会、学級通信などで紹介する。
- ・学習したポイントを学級内に掲示し、折に触れて確認する。
- ・学級通信などで活動の内容を紹介し、家庭での様子を見守っていただくようにする。
- ・学年間で活動内容等を共有し、学校生活における児童の様子を観察する。

板書計画(1時目)

【めあて】怒りについて考えよう

【楽しく過ごすために】

- ・
- ・
- ・



※学習の導入として、楽しい学校生活を送るためには、どのような学級になったらよいかを出してもらい、「・」などで示します。



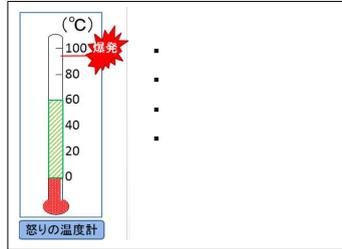
【トラブルが起きると】

- ・
- ・
- ・



※日常生活を想起させながら、もめている立場にあるときの気持ちに触れ、楽しく学校生活を送ることができているときの気持ちと対比させます。

【怒りの温度を比べてみよう】



※怒りの温度を友達と比べてみて気付いたことや感じたことを出してもらい、「・」などで示します。

【学習後の感想】

- ・
- ・
- ・
- ・

※学習を振り返って気付きや感想を出してもらい、「・」などで示します。

本時で使用するスライドと、スライドを提示する際の教師用シナリオです。

【スライド1】



【このスライドを提示する際の教師用シナリオ】

皆さんは、どのような学級になったら、楽しい学校生活を送ることができると思いますか。

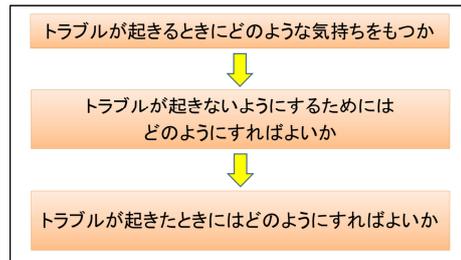
- ・仲の良い学級
- ・けんかのない学級
- ・いじめのない学級

しかし、学校の中で、腹が立ってイライラしたりムカカしたりすることがあるかもしれません。また、小さなトラブルが起きるかもしれません。

先生は、もしトラブルが起きても、トラブルを話し合いで解決できる学級になればいいなと思っています。

小さなトラブルを皆さんの力で解決できるようになれば、もっと居心地の良い学級になると思っています。

【スライド2】



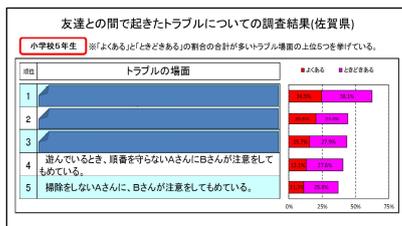
【このスライドを提示する際の教師用シナリオ】
(●印のとき、アニメーションを動かす)

これから、自分たちでトラブルを解決できるようになるために、6時間の授業を計画しています。

内容は、

- 「トラブルが起きるときにどのような気持ちをもつか」
 - 「トラブルが起きないようにするためにはどのようにすればよいか」
 - 「トラブルが起きたときにはどのようにすればよいか」
- について学習していきます。

【スライド3】



【このスライドを提示する際の教師用シナリオ】
(●印のとき、アニメーションを動かす)

これは、佐賀県の小学生を対象に実施した「友達との間で起きたトラブルについての調査結果」です。

多かった上位5位までを挙げています。

第5位は、「掃除をしないAさんに、Bさんが注意をしてもめている。」でした。

第4位は、「遊んでいるとき、順番を守らないAさんにBさんが注意をしてもめている。」でした。

第3位は・・・

●「ボール遊びをした後、AさんもBさんも片付けたくなくてもめている。」でした。

第2位は・・・

●「サッカーやドッジボールで、ボールが線から出たか出ていないかで、AさんとBさんがもめている。」でした。

第1位は・・・

●「ドッジボールで、ボールで当たったか当たっていないかで、AさんとBさんがもめている。」でした。

皆さんの周りで同じようなトラブルを見たことがありますか。

このようなトラブルの場面で、もし、あなたがもめている立場だったら、どのような気持ちになりますか。

- ・イライラする
- ・腹が立つ
- ・ムカッとする
- ・悲しくなる

トラブルが起きるときに感じる様々な気持ちの1つとして、怒りがあります。怒りは人間のもっている感情の1つで、怒りを感じるのは自然なことです。大切なことは、怒りとどのように付き合っていくかです。

【スライド4】



【このスライドを提示する際の教師用シナリオ】

今日は、怒りについて学習していきます。

【スライド5】

自分の怒りの温度を測ってみよう

次のようなとき、あなたはどのくらい怒りを感じますか。怒りの温度計に色を塗りましょう。
イライラしていないときの温度を0℃、怒りが爆発するときの温度を100℃とします。

(例) 今から勉強しようと思っていたのに、家の人から「勉強しなさい」と言われた。

怒りの温度計

【このスライドを提示する際の教師用シナリオ】

●印のとき、アニメーションを動かす

ワークシートの1を見てください。

あなたは次のようなとき、どのくらい怒りを感じますか。

怒りの温度計に色を塗りましょう。

イライラしていないときの温度を0℃、

●怒りが爆発するときの温度を100℃とします。

塗り方を確認します。

例を見てください。

「今から勉強しようと思っていたのに、家の人から「勉強しなさい」と書いてありますね。

同じことが起きたとき、あなたの怒りの温度はどのくらいですか。考えてみましょう。

60℃だと思ったら

●このように、60の目盛りのところまで、色を塗りましょう。

塗り方について、質問はありませんか。

それでは、ワークシートの1に書いてあるような出来事があったとき、どのくらいの怒りを感じるのか、個人で考えて「怒りの温度計」に色を塗りましょう。

(1つずつ読み上げて、怒りの温度をワークシートに記入させる。)

(1)～。

(2)～。

【スライド6】

怒りの温度を友達とくらべてみよう

「①のときの怒りの温度は・・・」

【このスライドを提示する際の教師用シナリオ】

グループの人と「怒りの温度計」がどのくらいになったのか交流しましょう。

【スライド7】

怒りの温度を友達とくらべてみて、気づいたことや感じたことを書こう

【このスライドを提示する際の教師用シナリオ】

(怒りの温度を友達と比べてみて、)

ワークシートの2に気づいたことや感じたことを書きましょう。

【スライド8】

怒りの温度を友達とくらべてみて、気づいたことや感じたことを発表しよう

【このスライドを提示する際の教師用シナリオ】

怒りの温度を友達と比べてみて、気づいたことや感じたことを発表しましょう。

- ・怒りの温度は、人によって違っていた。
- ・人によって、怒りの感じ方は違う。
- ・怒りの温度が同じくらいの出来事があった。

同じ出来事でも、怒りの感じ方は人によって違います。逆に、誰もが似た感じ方をする出来事もありました。

【スライド9】



【このスライドを提示する際の教師用シナリオ】

今日の学習を振り返ります。ふりかえりシートに記入しましょう。

今日の学習の気づきや感想を発表しましょう。

- ・同じ場面でも、温度が高い人もいれば低い人もいることが分かった。
- ・場面によっては、同じくらいの温度になるものもあった。
- ・人それぞれ怒りの感じ方が違うから、友達と話すときに思い出すとやさしく話すことができそう。

今日は、怒りについて学習しました。怒りは、誰でも感じるもので、怒りの感じ方が人によって違うことも学びました。

次の時間は怒りについて更に詳しく学習していきます。